吉田寿子の全日本パラ・パワーリフティング選手権大会観戦記（連盟事務局長、IPC国際１級審判員）

写真：阿部謙一郎

2016 年全日本パラ･パワーリフティング選手権大会が平成 28 年 12 月 3 日、日本体育大学記念講堂で開催された。日体大の卒業生で、連盟の副理事長でもある石田直章さんのご尽力と、日本体育大学の皆様のご理解で、毎年、大学の記念講堂を使わせていただいていることに、心から感謝申し上げたい。

東京パラリンピック招致が決まって以来、大会そのものを少しずつグレードアップすると同時に、役員の動きもスムーズになるようにと、大会毎に、レベルアップを目指している。

今大会では、東京都障害者スポーツ協会の支援を受けて、大型映像を導入することができた。パワーリフティングの大会は、ベンチ台に仰向けに寝た状態で、どれだけ重い重量が押せるか、という競技であり、観客からは、選手の表情が読み取りにくい。そこで、カメラを真上に備え付けることで、試技中の選手の顔が観客にも見えるようにした。また、この大型映像のスクリーンがそのままアベマＴＶとして、ネットテレビで中継された。こちらも東京都障害者スポーツ協会の「全日本大会の観客動員促進」という目標に沿った事業で、大会後、このときの視聴者は４万７千人を数えたと報告を受け、ネットテレビの中継のお陰で、パラ・パワーリフティングの試合を見てくださる方が、一

舞台設営、選手にスポットが当たることを第一義に。

写真上；新しいマークの発表。　写真下；力強い宣誓は三浦選手

挙に今までの何百倍にもなった。また、大会の一週間前からは、ニッポン放送で、宇城選手が、パワーリフティングを始めたきっかけや意気込み、パワーリフティングにかける思いが毎日放送され、全日本パラ・パワーリフティング大会の告知に大変重要な役割を果たした。

さて、今回の参加選手も昨年から比べると倍の 40 名を数え、このうち 11 人は全日本初参加であった。発掘事業や微力ながらパラ・パワーリフティングの広報活動をしてはいるが、今回の初参加の増大は、やはり、パラリンピックが東京で開催されることで、その参加を模索する選手たちの思いの表れであったと思う。

幸いにも、ＩＰＣのルールが変更され、新しい選手にも、東京に向けて頑張るチャンスが生まれてきた。連盟としても新しい選手をいかに強くし、一人でも多くの選手を東京パラに送り、何とか、メダルを獲得する選手を誕生させるべく、選手強化への大きな課題を抱えることとなった。

まだまだ、全日本大会をよりよくすべき課題は多いが、昨年から始まった東京パラに向けて「魅せる大会開催作戦」は様々な方々のご支援を得て、階段をまた一歩登れたと思う。

開催にあたり、スポーツ振興基金、日本パラリンピック委員会、財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター、東京都障害者スポーツ協会には、ご支援いただき、心からの感謝を申し上げたい。

また、パラリンピックサポートセンターの支援で、バンタンスポーツアカデミーの協力を得て、クラウドファンディングを行ったり、大会中に、世界記録挑戦というコーナーを設けたり、昼休みにクイズ大会を開催したり、開会式に日体大の応援団の方と、チアリーダーの方々に高らかに応援をしていただいたり、新しい視点を大会に盛り込むことができた。

また、日本体育大学ウェイトリフティング部のご協力で、大学生の方々にも大会運営にご協力いただいたこと、だんだん増えていくマスコミの皆様への対応を電通ＰＲさんが一手に引き受けてくださったこと、パラリンピックサポートセンターの紹介でプロのカメラマンに初めて大会の撮影をお願いしたこと、プロのアナウンサーや、大型映像の導入に力を貸してくださったニッポン放送プロジェクトの皆さん、など、本当に多くの方々にお世話になった大会となった。

まだまだ、東京パラリンピックに向けては、課題も多く、あと、4 年、毎年２回の連盟主催の大会で、益々のグレードアップをはかっていかなければならない。

連盟専任トレーナーの山本浩由さんが、各選手の 3 試技（人によっては 4 試技）ごとに、映像をまとめていますので、選手、コーチの皆様、自分の試技が欲しいときは、事務局にお申し出ください。

世界記録に挑戦の写真コーナー、学生さんならではの発想

力をもらった日体大応援団とチアリーダー部。

女子４１ｋｇ級、優勝、成毛美和、記録３８ｋｇ。

茨城県在住、脊髄損傷。ご主人と喫茶店を営み、仕事、子育てと忙しい成毛さんだそうだ。パワーリフティングをしてみたいと、大会一ヶ月前、茨城県つくば市のパワーハウスつくばの門をたたいたとの事。どれだけのことができるか分からないが、と、オーナーの瀬尾桂一さんは、自分のベンチ台を成毛さんに貸し出し、重い日の練習として、週に一回だけジムを訪問し、軽い日は、自宅でトレーニングしなさい、と、全日本に臨んだ。結果は、32 － 35 － 38 ｋｇ成功。特別試技で 40 ｋｇを目指したが、こちらは失敗。まだ、ＩＰＣ登録をしていないので、新人として、2017 年９月以降、ＩＰＣ登録をして、世界標準 52 ｋｇを突破すれば東京パラリンピック候補に名前を連ねることができる。パワーハウスつくばのコーチと成毛さんの頑張りに期待したい。

女子４５ｋｇ級
優勝、小林浩美選手、記録 60 ｋｇ
2 位、中嶋明子選手、記録 45 ｋｇ

優勝の小林選手は、シャルコマリーツース病克服のためにトレーニングを始めた。福岡県福岡市在住。中ノ瀬コーチと二人三脚で頑張っている。連盟初の女性選手であり、フェスピック、アジアパラで、このクラスの銅メダルを獲得するなど、病気克服が、いつの間にか、トレーニングの成果で日本のエースに成長した。中ノ瀬コーチは、特にトレーナー資格を持っておられるわけではないそうだが、解剖生理学を研究してこられ、小林選手の末端神経をどのようにしたら活性化させられるか、神経の萎縮を食い止められるか、など、人間の動きの基本をもとに、手作りの道具と、トレーニングの工夫で、小林選手の病気と一緒に戦ってこられた。小林選手の症状の改善に、かかりつけの医師には、ありえない、むしろウェイトトレーニングは肝臓にも負担を与えるのでやめたほうがよい、と、言われ続けてこられたと、聞いている。だが、結果的に、寝たきりが歩けるようになり、今では、10 キロのマラソンに出たりしている。小林選手は、トレーニングを始めて一ヶ月で 50 ｋｇが挙がるようになったと、証言しておられるので、筋力の高い素地を持ち合わせておられたようだが、それを、中ノ瀬コーチがうまく引き出し、現在の小林選手がある。

世界標準記録はすでに突破しているので、あとは、世界ランキングをどれだけ上げるか、ということが、今後の課題となる。

二位の中嶋明子選手は、カヌーの選手でもあり、カヌーとパワーの二種目で、東京パラ参加を目指している。交通事故による脊髄損傷、兵庫県在住。前回のジャパンカップの初デビューでは記録なしに終わってしまったが、その後、京都合宿にも参加され、今回は、45 ｋｇ。50 ｋｇは惜しくも失敗だったので、今後の活躍が待たれるところだ。

緻密に考えながら、何事にも挑戦していく中嶋選手の姿勢は、パワーリフティング競技の向上にはなくてはならない資質の一つなので、今後の活躍が大いに期待できる。

グループＡの選手プレゼンテーション、緊張の面持ち

女子５５ｋｇ級
優勝、マクドナルド恵理選手、記録 49 ｋｇ（特別試技 50 ｋｇ）

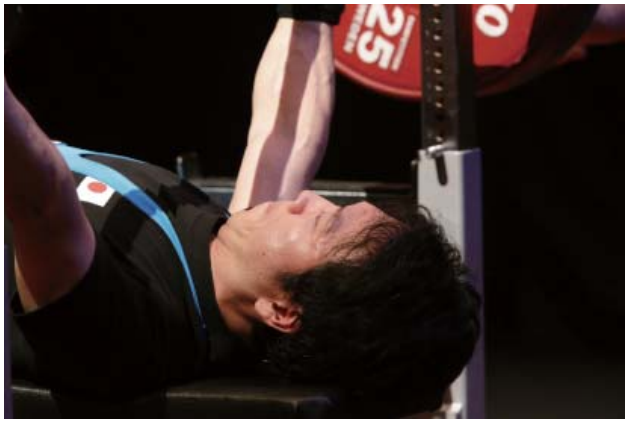
二分脊椎症。カナダ人のご主人とともに、カナダで生活しておられた恵理さんのもとに、パラリンピックサポートセンターが開設されることになるので、東京に来てほしいと要請があったとのことだ。リオのパラリンピックでも、ＩＰＣのメンバーとして最優秀選手の投票場の仕事をしておられたので、パラリンピックサポートセンターとしては、恵理さんの力を是非お借りしたい、という事だったようだ。銀行勤務のご主人も日本転勤となり二人で東京に移住してこられた。カナダではアイススレッジホッケーのチームに入って活動しておられたようだ。日本に来てからは、ぜひ、女子のアイススレッジホッケーチームを作りたいと奔走して来られたようだが、人が集まらず、難しい、ということで、ウズウズしていたそうだ。

そんな時、銀座でノーリミッツチャレンジによる、パラリンピック発掘事業があり、たまたま見に来ていた恵理さんが、ベンチをトライしてみると、４０ｋｇに成功。ひょっとしたらいけるかも、と、早速、パワーリフティングのトレーニングを開始。パラリンピックサポートセンターの地下で、昼休みに、ミニサッカーを楽しむ社員の人たちとともに、ウェイトトレーニングを始める。パラリンピックサポートセンターは東京パラ終了後 1 年までの仕事。それまでにすべきことが山積みしており、多忙を極める恵理さんには、昼休みの 1 時間しか練習時間がない。その 1 時間を有効に使い、今回は、50 ｋｇまで記録を伸ばした。2017 年のドバイ大会、ジャパンカップで、50 ｋｇ級の世界標準 57 ｋｇを目指す。減量、仕事、練習、恵理さんのチャレンジが始まった。精神的気力もパワーリフティングには必要だが、パワフル恵理選手に大いなる期待が寄せられるところだ。

男子４９ｋｇ級
優勝、三浦浩選手、130 ｋｇ
2 位、松本崇選手、85 ｋｇ

優勝の三浦選手は、ロンドン、リオの 2 大会パラリンピック参加のパラリンピアン。2002 年に舞台関係の仕事をしていた三浦さんに照明装置が倒れて直撃、これを受け止めた三浦選手は脊髄損傷に。東京都在住。失意の三浦選手は、たまたま、アテネパラリンピック出場の宇城元選手の紹介が週刊誌に掲載されているのを見かけ、「これだ」、と、パワーリフティング競技に参加する決意をしたという。本年一月には体調を壊したが、春頃から徐々に復調。リオのパラリンピックでは、ロシアの欠場を受けて、リオ日本選手団が出発するわずか一週間ほど前にパラリンピック参加が決定。記録的には、完全復調、とまでは行かないが、5 位に入賞。今回も自己ベストの 135 ｋｇには及ばなかったものの、130 ｋｇまで、記録を回復。東京を目指して、パラランキングのアップと、本ちゃんでのメダルゲットを目指して進んでもらいたい。

2 位の松本選手ももち記録 97 ｋｇで世界標準参加権利を持つ。仕事中に屋根から転落して脊髄損傷に。神奈川県相模原市在住。まじめにトレーニングを重ねる努力家。世界選手権はじめ、国際大会で東京パラランキングアップを目指してもらいたい。



上から 49 ｋｇ級松本選手、54 ｋｇ級 2 位加藤選手、3 位岡田選手

男子５４ｋｇ級
優勝、西崎哲男選手、127 ｋｇ
2 位、加藤尊士選手、110 ｋｇ
3 位、岡田有史選手、105 ｋｇ
4 位、志賀貴之選手、80 ｋｇ

パラリンピック出場の西崎選手が 127 ｋｇで優勝。奈良県出身、現在、大阪市在住。交通事故で脊髄損傷になった西崎選手は、陸上でもフェスピックに参加するなど活躍していたが、東京パラリンピックが決まったことで、パラリンピックに出るには、パワーリフティングが近道と、直感し、パラリンピアンの大堂選手に連絡。どうしたら、パラリンピックに出られるか、と、尋ね、連盟の大会に参加し始める。陸上では仕事と練習の両立をめざし、悔いが残った、と、思い切って公務員の仕事を辞めて、練習に打ち込む決意をしたと聞いている。連盟としては、そういう選手の助けになれば、と、アスナビというＪＯＣの行っている就職支援活動を紹介し、そこで、乃村工藝社と出合い、現在、会社の支援を受けながら、練習に励んでいる。目標は、東京パラリンピックということだったが、リオに堂々選考された。

リオでは試技の正確さに欠けたことが審判の合格判定がもらえず、惜しくも失格。今回の 127 ｋｇはリオで失敗した重量。今回のように、慎重に 120 ｋｇくらいのスターで、徐々に重量を上げてくれていれば、リオでの入賞が確保できただけに、連盟としては、残念でならない思いが残っている。リオでの失敗を糧に、どれだけ練習が好調であっても、その日の状態を、間近で選手を支え、見ているコーチの目を信頼して、東京への道を歩んでもらいたいと願う。試技の正確さを身につけるだけで、メダルも射程内に入ってくることを考えると、力はあるので、連盟のコーチや国際審判の目をもっと、積極的に利用して頂きたいと思う。本当に厳しい判定に耐えうる試技を身につければ、東京では、上位陣を攪乱できるのではないだろうか。

2 位の加藤尊士選手、3 位の岡田有史選手ともに、すでに世界標準をとり、競り合っている。東京パラリンピックを目指すには、西崎選手より上に行くか、あるいは、クラスを変えるか、という選択が必要になってくる。パラリンピックでは、各クラス、同国からは一人しか行けないので（ただし、バイパルタイトによる参加は例外）まずは、東京パラリンピックを目指すのは、日本で、各階級のトップに立つ必要がある。

2 位の加藤選手は、1 歳の頃の心臓手術の後遺症で、下半身が動かなくなったそうだ。お役所勤めの加藤選手は、陸上にのめりこみ、結婚してからも、家庭を顧みず練習に打ち込んだそうだ。そんな加藤選手に誕生したお子さんが、不幸にも病気で亡くなられたそうだ。加藤選手は、陸上にのめりこんだあまり、子供と一緒にいる時間が少なかったことに、心の底から悔いが残り、陸上でパラリンピックを目指すのを断念したという。色々、調べた結果、パワーリフティングなら陸上ほどの練習は要らないのではないか、と、愛知県岡崎市の「ちからこぶ」、ジムの福田康弘さんをたより、パラ・パワーリフティングを始める。福田さんと連盟理事長の吉田進とは、健常者のパワー仲間、ジムニー好き仲間で、福田さん、理事長が連携しながら、半年で世界標準突破まで力をつけていった。今は、週に三回、メリハリのある練習で、家族を大事にしながら、パ

メディアの皆さんの取材を受ける。大会ではこのようなメディア配慮が必要と学ぶ。

大会を盛り上げるプロのＭＣと、吉田進連盟理事長

ワーリフティング競技を楽しんでいる。

岡田選手は、高校時代のバイク事故で、脊髄損傷に。埼玉県出身、東京都在住。2000年頃、多摩障害者スポーツセンターで、全日本大会を開催していたパラ・パワーリフティングを見て、パワーリフティング競技に参加してくれたので、競技暦は長い。ただ、ここしばらくは、色々な故障に苦しみ、思うように記録を伸ばせなかったようだ。ここに来て、ようやく故障を克服する目処が見えてきたので、岡田選手の記録の伸びを楽しみにしたい。致命的な怪我は、回復が大変だが、パワーリフティングというのは、小さな怪我と回復を積み重ねながら、段々と、腱や筋肉が強くなり、時間をかけて強くなっていく競技だと改めて思い返される。ドバイでは、59ｋｇ級で世界標準に挑む。多摩障がい者スポーツセンターで、思い返されるのが、リオにコーチとして参加したＪＰＣ公認コーチの岡本孝義さんだ。岡本さんも、この多摩の全日本時代から、パワーリフティングの補助員や様々な仕事を手伝ってくださり、現在に至っている。選手も息が長いが、コーチやスタッフも、ともに、歩んできたことを思い返すと、改めて連盟を支えてくださっている皆さんに感謝の思いが湧き上がる。

４位に入った志賀選手、北海道から参加。80ｋｇ級の斉藤選手に進められてこの競技に参加、徐々に記録を伸ばしているので、ジャパンカップでは、ぜひ、世界選手権標準突破を目指していただきたい。

男子５４ｋｇ級バトルから目が離せない

男子５９ｋｇ級
優勝、戸田雄也、110ｋｇ
2位、須田勝、90ｋｇ
3位、蛯名敏正、74ｋｇ
4位、古田康和、72ｋｇ

ハワイのサーフィン中の事故で脊椎損傷をおったという戸田選手。北海道在住。果敢にこのクラスの世界標準を狙ってきたが、本当に惜しいところで失敗。次回チャンスの７月のジャパンカップでは必ず世界標準を破っていただきたい。連盟理事長が本年から選手に紹介している連盟推奨トレーニングプログラムを実施し、効果が出ていると、話していたので、引き続き、理事長に遠慮なくプログラムの相談をしていただき、成果を見せてもらいたいと思う。

２位には、大会参加二回目の須田選手が、本年６月より大きく記録を伸ばして、90ｋｇ。

３位には、蛯名敏正選手が入った。

４位は、若年性リュウマチを煩い、リハビリ＆パワーを目指している古田選手が72ｋｇを上げて入った。

残念、世界標準を失敗し、悔しい戸田選手。５９ｋｇ級、優勝。

６５ｋｇ級の第一人者、城選手

６５ｋｇ級
優勝、城隆志選手、130 ｋｇ
二位、田中翔悟選手、125 ｋｇ
三位、村井都稚夫選手、110 ｋｇ
四位、鈴木昭一選手、105 ｋｇ
五位、串間正嗣選手、101 ｋｇ
六位、竹内敏文選手 100 ｋｇ
七位、内田元哉選手、100 ｋｇ
八位、朽木亮一選手 93 ｋｇ
失格、古屋博選手、記録なし

城隆志選手は、20 歳代で交通事故にあい車椅子生活に。大分の太陽の家創設者の中村さんがまだお元気なころに入社した貴重な現役選手だ。現在、連盟のアスリート委員長を務め、選手のまとめ役を買って出ている。また、ジュニアの松崎選手の指導にあたり、太陽の家から、何とか、東京パラリンピックに送り出したいと、選手育成に心を砕いている。

二位入ったのは、片足切断で、アームレスリングでも活躍する、田中翔悟選手。いきなり、このクラスの標準記録を突破したつわもの。これからは、国際クラス分けを受け、ＩＰＣの登録選手となり、記録を伸ばしていくことで、東京パラが近づいてくる。２月にドバイ大会参加を希望しているので、ドバイで、クラス分けを受け、ＩＰＣ世界ランキングを認められる立場での世界標準突破を目指していただきたい。ただ、このクラスも５４ｋｇ級と同じく、パラリンピックには、一人しか出られないので、このクラスのトップに立つか、あるいは、クラスを変えて、異なるクラスのトップに立つことが求められる。

このクラス３位となった村井選手は、病気が原因で、車椅子生活に。力はあるのだが、試合で通る試技がまだ不十分で、結果が出せていない。ドバイ参加を目指したが、城、田中選手が出場希望だったので、一クラス２名しか参加できないという国際大会参加ルールのため、止む無く、59 ｋｇ級に減量して、標準突破を目指すと、聞いている。

4 位は、交通事故で大腿切断の鈴木昭一選手、しばらく肩を痛めていたとの事で、練習できなかったがやっと間に合ったと全日本に出場してきた。合宿で、肩を何故痛めるか、痛めないために何をしたらよいか、を、中ノ瀬さん指導による解剖生理学見地からの肩の予防方法、を合宿の報告書で出しているので、ぜひ、参考にしていただきたい。ちょっとした日常の動作、準備で、致命的な肩の痛みを予防できる、ということも学び、ジャパンカップでは、世界標準 125 ｋｇを目指してもらいたい。

125 ｋｇの世界標準突破！田中選手。

５位には、テレビでパラ・パワーリフティングの紹介を見て、この競技だと、いきなり長崎から京都合宿に参加してきた、串間選手が 101 ｋｇを上げて入った。串間選手もまだ、パワーを始めて２ヶ月。今後の記録の伸びに期待したい。

6 位は、内田選手で、100 ｋｇを上げた。去年まで各クラスほと

んどが一人か二人、という状況から、今回は、一挙に一クラス９名の選手がしのぎを削るという試合が展開した。今後も、多くの選手が切磋琢磨して、お互いに競い合い記録を伸ばしていってもらいたい。

７２ｋｇ級

優勝、佐野義貴選手、142 ｋｇ、（特別試技、148 ｋｇ）

2 位、當山龍選手、122 ｋｇ

3 位、野沢哲男選手、103 ｋｇ

4 位、金谷晃久選手、90 ｋｇ

5 位、石河毅哉選手、85 ｋｇ

6 位、熊谷眞人選手、70 ｋｇ

優勝の佐野選手は、交通事故による脊髄損傷。神奈川県相模原市在住。ＪＯＣの就職支援を行っている、アスナビさんの支援を受けて、恵まれた環境でトレーニングを始めて半年ほどがたった。佐野選手を見ていると、「覚悟」ができた、（という表現がよいかどうかは分からないが）計画通りの練習をきちんとこなし、以前にもまして、積極的に行事に参加してくれるようになり、東京パラリンピックに目標が定まった、という、目標のはっきりしている人間の強みのようなものを感じさせてくれるようになった。すでに世界標準は突破しているので、少しでも記録を伸ばして、東京パラリンピックランキング上位入りを目指してもらいたい。

二位には、沖縄の當山選手が、122 ｋｇを上げて入った。健常者の沖縄大会の結果で、何度か、記録を見かけたことがあり、ＪＰＰＦに参加されないかな、と、思っていたところ、申し込みがあった。これから伸び盛りという選手で、佐野選手を目標に、頑張っていってもらいたい。

三位には、野沢選手が、103 ｋｇを上げて入った。四位は、馬島選手とともにアイススレッジをしている金谷選手で 90 ｋｇであった。また、ＪＳＣの発掘事業に参加し、一ヶ月でパワーリフティングの試合に参加してきた石河選手が 5 位で 85 ｋｇ、6 位は熊谷選手で 70 ｋｇをマークした。このクラス、佐野選手以外は、全員初出場ということで、今後のこのクラスの展開は大変注目されるところだ。

８０ｋｇ級

優勝、宇城元選手、156 ｋｇ

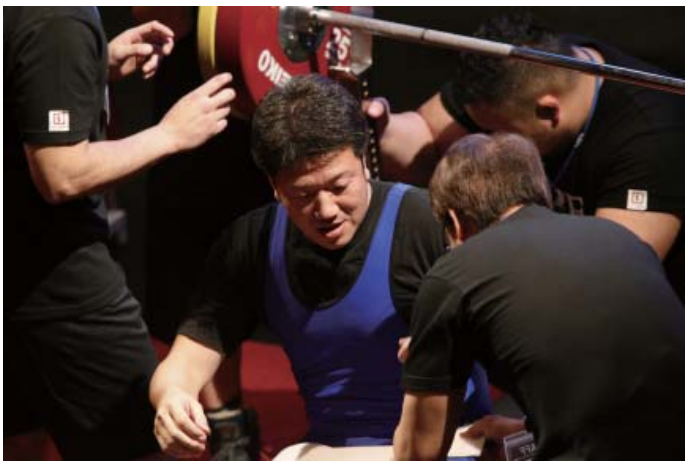
二位、斉藤伸弘選手、150 ｋｇ

三位、佐藤芳隆選手、130 ｋｇ

優勝の宇城選手。交通事故による脊髄損傷。宇和島出身で現在は、千葉県佐倉市在住。順天堂大学の経理部としての勤務をこなしながら、トレーニングを重ねている。アテネ、ロンドンの二大会でパラリンピックに参加したパラリンピアン。どうしたことか、一本目をつぶれてし

写真上：グループＣのプレゼンテーション。写真下左：まさかの失敗、宇城選手。写真下右：自己ベスト斉藤選手。

８８ｋｇ級、優勝の石原選手。



まう。リオに選ばれなかった後、東京に向けて完璧に、と、肘の手術を受け、目下リハビリ中ではあったが、まさかの一本目失敗に本人も呆然。

すぐに山本専任トレーナーの治療を受け、2，3本目は、成功。大会会場に専任トレーナーが居るのは、大変、心強い。

二位には、斉藤選手が、チャンスとばかりに、宇城選手にかぶせて、優勝を目指す。二分脊椎症、北海道帯広市在住。逆転の157ｋｇに惜しくも失敗し、宇城選手には敗れてしまったが、昨年より記録を伸ばしているので、今後の活躍に期待が持てる。三位には、神奈川から茨城の実家に引越した佐藤選手が入った。心機一転でトレーニングを開始し、130ｋｇという好成績を残した。

男子８８ｋｇ級
優勝、石原正治選手、115ｋｇ

石原選手は、車椅子バスケットの選手、埼玉県在住、初出場、初優勝。会場に車いすバスケの仲間が応援に駆けつけておられた。東京パラリンピックを目指して、パワーリフティングに参戦。今後の伸びに期待がかかる。目標としては、2017年のメキシコの後に、ＩＰＣ登録を行い、2018年のアジア選手権（北九州市）、2019年のカザフスタンの世界選手権を経て、東京パラリンピックランキングで、東京パラ参加への審査が行われる。

９７ｋｇ級、優勝の馬島選手。

このクラス日本のエース、大堂秀樹選手は、肩の手術のため、欠場。今は、絶対安静が続いていると聞いているが、夏ごろには復帰できるとの情報も入ってきている。無理をせずに、肩の完治と復活が待たれるところだ。

男子、９７ｋｇ級
優勝、馬島誠、145ｋｇ

学生の頃、アルバイト中に、全身やけどを負ってしまって車椅子になった馬島選手、アイススレッジではメダルを獲得しているパラリンピアン。夏のパラリンピックでも、あの感動をもう一度味わいたいと、選んだ種目が、パワーリフティング。昨年から、参加し始め、いきなり日本新記録樹立。現在、仕事環境も変わり、準備万端、東京へ向けての始動が開始された。活躍が待たれるところだ。

男子１０７ｋｇ級

107ｋｇ以上級優勝の竹田選手。

優勝、中辻克仁選手、185ｋｇ

交通事故による大腿部切断。大阪府堺市在住。自己の持つ日本記録を更新すべく、第三試技で193ｋｇに挑戦したが惜しくも失敗。今大会最高重量挙上者に、会場からは大きな拍手が巻き起こった。試技に賭ける集中度は、連盟随一、。中辻選手の実力に、会社からのアスリートとしての活動に理解をいただき、活動範囲が広がっている。日本の重量級を背負う選手として羽ばたいてもらいたい。

写真上、５９ｋｇ級ジュニア奥山選手。下は、１０７ｋｇ以上級優勝の松崎選手

男子１０７ｋｇ以上級
優勝、竹田将広選手、140 ｋｇ

スーパーヘビー級、優勝は、竹田選手。通勤中の事故で、脊椎損傷を負い、車椅子になる。

愛知県春日井市在住。経歴の長い選手だが、今年の前半は、練習不足で不調であったが、一転して、合宿にも積極的に参加を重ね、自己ベストに近づくべく、トレーニングを重ねている。今大会では、ジャパンカップよりも記録を20 ｋｇ伸ばしている。このまま、練習を重ね、自らが持つ155 ｋｇの日本記録を突破してもらいたい。

ジュニア５９ｋｇ級
優勝、奥山一輝、90 ｋｇ

二分脊椎症。千葉県在住。テニスの選手で、富士通のコマーシャルなどにも登場。もともとは、テニスのためのトレーニングの一環としてのパワーリフティングであった。ＪＰＣ主催の新人発掘事業に参加し、力があるところから、是非に、と、宇城選手の指導で、力をつけ、東京ではテニスかパラ・パワーリフティングのどちらかでパラリンピックを目指したいと、頑張っている。この一年で、どちらの道をとるか、選択すべきときが来るかもしれないが、順天堂大学に入学し、環境は整っているので、連盟としては、テニス、パラ・パワーリフティングともに頑張っていただきたいと思っている。パラ・パワーは、テニスにとっても基礎筋力養成に大切なトレーニング種目なので、今の段階では、どちらの競技も大事にしていただきたいと思う。

今大会ベストリフターは、女子４５ｋｇ級小林選手と男子１０７ｋｇ級中辻選手

年齢？それが何か。記録を伸ばし続ける大谷選手

ジュニア１０７ｋｇ以上級
優勝、松崎泰治、130ｋｇ

二分脊椎症。大分県在住。会う度に体重も、胸囲も、そして、記録も10ｋｇ単位で増えている。今回は、日本記録を狙い140ｋｇも軽いのだが、まだまだ、試技の精度があらい。丁寧な試技を覚えると、ジュニアの世界標準は突破できるので、正確な試技で、怪我のない練習を身につけ、記録を伸ばしてもらいたい。

視覚障がい者部門
７５ｋｇ級
優勝、大谷重司、140ｋｇ

本年は、視覚障がい者部門は大谷選手ただ一人の参加となった。昨年、ＩＢＳＡ（世界視覚障がい者スポーツ協会）主催のワールドゲームズがあり、日本からも３名の選手を派遣したが、今年は、皆さん、一休み、と言った館があった、３年後には、また、ワールドゲームズが有るので、ぜひ、来年は復活していただきたい。

視覚障がい者部門は、まだ、パラリンピックの種目には入っていないが、大谷選手は、積極的に健常者の世界大会に参加していき、2016年の世界クラシックベンチ大会では、74ｋｇ級で３位の成績を収めた。

大谷選手は、2017年には、還暦を迎えるのだが、「みんな、どうして、年齢、年齢と言うのだろう。年齢なんか関係ない、ひたすらバーベルに挑むのみ」と、55歳から始めたパワーリフティングだが、最初は、120ｋｇから始まって、現在、自己ベストは、145ｋｇ。今回も惜しくも150ｋｇに失敗したが、文字通り、年齢に関係なく、記録を伸ばし続け、バーベルに挑み続けておられる。ＩＰＣ部門の三浦選手も、52歳でリオに参加したが、周りの「年齢」「年齢」といういわば「年を重ねたら記録は伸びるはずがない」と言うステレオタイプの概念を打ち破っている。
『還暦」で、生涯自己ベスト記録誕生！ 2017年にはそんな声が聞こえる事だろう。頑張っていただきたい。

試合を終えて全員集合、選手の皆様お疲れ様、役員の皆様ありがとうございました！！

2016年全日本パラ・パワーリフティング選手権大会結果

平成28年12月3日、会場;日本体育大学世田谷校、記念講堂

	氏名	所属	生年	体重	第一試技	第二試技	第三試技	特別試技	結果
視覚障害の部									
75kg級									
1	大谷　重司	パワーハウス	1957	75	130	140	~~-150~~		140
ジュニアの部									
59kg級									
1	奥山　一輝	順天堂大学	1997	58.2	~~-90~~	90	~~-95~~	~~-95~~	90
107kg以上級									
D	松崎　泰治	個人	1999	116.2	120	130	~~-140~~	~~-140~~	130
女子の部									
41kg級									
1	成毛　美和	個人	1969	40.18	32	35	38	~~-40~~	38
45kg級									
1	小林　浩美	個人	1969	44.28	60	~~-63~~	~~-63~~		60
2	中嶋　明子	個人	1975	44.66	~~-45~~	45	~~-50~~		45
55k級									
1	山本　恵理	公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター	1983	52.18	44	47	49	50	49
男子の部									
49kg級									
1	三浦　浩	株式会社東京ビッグサイト	1964	47.34	120	125	130	~~-136~~	130
2	松本　崇	パワーハウス	1969	45.88	85	~~-90~~	~~-95~~		85
54kg級									
1	西崎　哲男	株式会社乃村工藝社	1977	52.84	120	127	~~-131~~		127
2	加藤　尊士	個人	1988	53.6	107	~~-110~~	110		110
3	岡田　有史	株式会社電通国際 情報サービス	1976	53.2	95	100	105		105
4	志賀　貴之	個人	1977	53.14	75	80	~~-83~~		80
59kg級									
1	戸田　雄也	個人	1982	57.58	110	~~-115~~	~~-115~~		110
2	須田　勝	個人	1967	58.74	85	90	~~-95~~		90
3	蛯名　敏正	パワーハウス	1973	57.66	70	74	~~-78~~		74
4	古田　康和	個人	1975	56.12	62	67	72		72
65kg級									
1	城　隆志	オムロン太陽株式会社	1960	63.76	121	126	130		130
2	田中翔悟	三菱日立パワーシステムズ株式会社	1985	63.9	115	120	125		125
3	村井　都稚夫	個人	1961	64.58	110	~~-115~~	~~-115~~		110
4	鈴木　昭一	パワーハウス	1975	63.48	105	~~-110~~	~~-110~~		105
5	串間　政次	個人	1962	63.78	90	95	101		101
6	竹内　俊文	個人	1976	60.68	80	90	100		100
7	内田基哉	個人	1968	63.56	~~-100~~	100	~~-108~~		100
8	朽木　亮一	個人	1995	62.28	93	~~-96~~	~~-96~~		93
9	古谷　浩	個人	1973	63.52	~~-60~~	~~-60~~	~~-60~~		0
72kg級									
1	佐野　義貴	アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社	1968	69.52	~~-142~~	142	~~-148~~	148	142
2	當山　龍	個人	1988	71.46	115	122	~~-130~~		122
3	野沢　哲也	パワーハウス	1973	67.62	95	100	103		103
4	金谷　晃央	個人	1990	71.06	80	~~-90~~	90		90
5	石河　毅也	個人	1993	69.58	75	80	85		85

6	熊谷昌飛	個人	1988	71.96	~~-70~~	70	~~-81~~		70
80kg級									
1	宇城　元	順天堂大学	1973	77.08	~~-146~~	146	156		156
2	斉藤　伸弘	株式会社ワトム	1967	77.12	145	150	~~-157~~		150
3	佐藤　芳隆	個人	1974	77.28	125	130	~~-132~~		130
88kg級									
1	石原　正治	個人	1972	82.34	~~-100~~	105	115		115
97kg級									
1	馬島　誠	個人	1971	93.94	140	145	~~-150~~	~~-150~~	145
107kg級									
1	中辻　克仁	個人	1969	100.2	175	185	~~-193~~		185
107kg以上級									
1	竹田　将広	個人	1971	121.96	125	135	140		140

ベストリフター

男子の部　中辻　克仁
女子の部　小林浩美

審判団

陪審員長　物江　毅
陪審員長　藤田　博之
主審　帯谷　典生　IPC公認国内審判員
副審　中元　伊知郎　IPC公認国内審判員
副審　澤　千代美　IPC公認国内審判員

世界選手権に参加するための標準記録

SENIORS	
Men's Event	**MQS**
Up to 49.00 kg	95 kg
Up to 54.00 kg	105 kg
Up to 59.00 kg	115 kg
Up to 65.00 kg	125 kg
Up to 72.00 kg	132 kg
Up to 80.00 kg	140 kg
Up to 88.00 kg	147 kg
Up to 97.00 kg	155 kg
Up to 107.00 kg	162 kg
Over 107.00 kg	170 kg

JUNIORS	
Men's Event	**MQS**
Up to 49.00 kg	87 kg
Up to 54.00 kg	97 kg
Up to 59.00 kg	107 kg
Up to 65.00 kg	117 kg
Up to 72.00 kg	125 kg
Up to 80.00 kg	132 kg
Up to 88.00 kg	140 kg
Up to 97.00 kg	147 kg
Up to 107.00 kg	155 kg
Over 107.00 kg	162 kg

SENIORS	
Women's Event	**MQS**
Up to 41.00 kg	52 kg
Up to 45.00 kg	55 kg
Up to 50.00 kg	57 kg
Up to 55.00 kg	60 kg
Up to 61.00 kg	62 kg
Up to 67.00 kg	65 kg
Up to 73.00 kg	67 kg
Up to 79.00 kg	70 kg
Up to 86.00 kg	77 kg
Over 86.00 kg	82 kg

JUNIORS	
Women's Event	**MQS**
Up to 41.00 kg	47 kg
Up to 45.00 kg	50 kg
Up to 50.00 kg	52 kg
Up to 55.00 kg	55 kg
Up to 61.00 kg	57 kg
Up to 67.00 kg	60 kg
Up to 73.00 kg	62 kg
Up to 79.00 kg	65 kg
Up to 86.00 kg	72 kg
Over 86.00 kg	77 kg